



一宮ロータリークラブ  
2023－2024 年度

会長方針 あだち 足立 まこと 誠

ロータリークラブの「社会奉仕」とは、自らの企業を発展させることが結果として社会への奉仕に繋がるという原則から、現在では社会に直接的に働きかけて、社会を良くすることをも意味するように進化を遂げています。

一宮RCは、2022－2023年度に実施した「子ども食堂」を、2023－2024年度ではその活動のプラットフォーム作りに発展させることを社会奉仕委員会は目指しています。この事業はフードロス・フードドライブにも着目し、他団体(企業・NPO)との協業も視野に入れ、先に繋がる活動・支援体制(プラットフォーム)の確立を目指すものです。

またIAC委員会においては、一宮・尾西・一宮北・一宮中央の4RCの提唱により2019年発足の「愛知真和学園大成中学・高校 インターアクトクラブ」の活動の支援とともに、RCとIACとの協業によって、中学・高校生を中核としたSDGsの推進・「子ども食堂」(社会奉仕委員会と共同)・RTFへの活動支援も企画しています。第2760地区の活動指針の1つである地域へのロータリー活動のPRにはうってつけであると考えます。

CREATE HOPE in the WORLD “世界に希望を生み出そう”は、2023－2024年度国際ロータリー会長G.R. マッキナリー氏の提唱するテーマです。一宮RCの2023－2024年度の諸活動が、先ずはこの地域に「希望を生み出し」、ひいては国際ロータリーのテーマや活動にリンクして世界に「希望」が拡散するならば、素晴らしいものとなると信じます。

最後に、会員数111名の一宮RCのロータリアンの皆さんにとって楽しいRC、参加しやすい例会を目指し頑張りたいと考えています。